

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	〒025-0244 岩手県花巻市湯口字松原55番地23 (電 話) 0198-25-2245		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価確定日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年1月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ銅板葺き平屋建て
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000	円	その他の経費(月額)	65,000	円
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 900 円				

(4)利用者の概要(10月 3日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高田医院、花巻病院、狩野歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年1月20日に開設されたグループホームで、綺麗な豊沢川が流れ、田園豊かな湯口町の西部に位置し、近くには民家もあり、地域との交流も取りやすい環境にある。また温泉にも恵まれている。 職員の応対も良く利用者の方々も明るく我々を迎えてくれた。基本理念には、住み慣れた地域で、尊厳ある人生を、その人らしく豊かに、安心して暮らせるホームを掲げており、職員の動きや言葉遣いも良く利用者との関係も自然な形で行われている。運営委員会も開かれており状況も説明し、意見も聞いている。自治会にも加盟し、交流が行われている。また、当ホームのすぐ後方には、母体の特別養護老人施設もあり、緊急時には24時間連絡が取れ、安心感のもてる非常に恵まれたホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の改善課題としてあげられた利用者本位の生活支援、入居者・家族の要望の反映1項目、サービスの質を確保する運営6項目、地域との連携2項目であった。入浴の時間帯については利用者、家族から希望を再聴取し調整されている。入浴時の羞恥心への対応についてはマニュアルを更に学習し改善されている。投書箱を設置するなどして相談体制には万全を期している。事故防止に向けての学習会、地域の人たちへの働きかけを協力を得られる対策も行われている。地域に対する協力などについては運営推進会議の議題にもあり改善の方向に向かっている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が参加して87項目が検討され利用者へのサービスの質の向上に向けて取り組まれた評価であり努力されていると感じた。自己評価は日常のサービスの反省材料に大きなかかわりがありますので困るようなことにぶち当たった時は自己評価に戻って反省の方向性を見定め、よい方策を探してほしいと思う。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3月、5月、7月、9月と4回開催されている。参加者も行政関係者、地域代表者、家族会代表、所長と職員と有力な方々であり、グループホームを運営するための意見が多く出されるようになっていく。ホームの生活の様子が率直に話し合われ利用者の生活の様子が委員の人たちに良く理解されたと思われる。外部評価で指摘されたことの反省点も説明されており前向きに取り組まれている。地域の方々と一緒に生活しているという感じをさらに強める様に努力することを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からのアンケートが全員から出されており、ホームでの生活の様子が良く見えてくる。「私たちでも気づかない本人の良い点を見つけてくれて毎日が楽しそうです。家にいるときより楽しそうにしていますし、安心していられます」…利用者や家族の意見を聞いて対応し、ホームの理念に添って尊厳ある生活がさらに継続されることを望む。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも加入し、回覧板などが普通の家と同じように廻されている。地域の人たちと一緒に動けなくても地域の一人としての意識を感じていれば安心感が持たれる。清掃活動や祭り、敬老会、運動会など地域で行われる行事にも参加しており地域住民の一人として生活しているようであり、さらに工夫をこらし無理のない形で連携を深めて欲しい。広報も地域に配布され素晴らしいと感じた。近所の人たちが気軽に立ち寄ってくれるようになればいいと思う。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、住み慣れた地域で、尊厳ある人生を、その人らしく豊かに、安心して暮らせる場所を目指すことが明示されている。住み慣れた地域で仲良く暮らすことは最高の目標である。サービスに当たっては常に理念に結び付けて行うことを目標に努力されている。	○	このようなサービスを職員が一体となって行うことを望む。訪問した時の利用者の笑顔がとても良かった。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をいつも頭に入れてサービスの計画が作成されている。ミーティングなどの機会などを捉えて理念の唱和も行っている。皆が常にくつろいでいる部屋にも見えるように掲示されている。	○	皆で唱和し理念がさらに活かされることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	写真入の広報を発行しグループホームの状況を地域の人たちに知らせている。自治会にも加入し、地域の人たちと一緒に暮らすことが目指されている。敬老会、祭りなどにも参加しており、一緒に暮らすことで地域との連帯感も深まり孤立感も少なくなる。	○	地域の人たちが気軽に立ち寄って遊んでいけるような支援が欲しいと思われる。回覧板のやりとりも地域の一員として自覚させる材料にしてほしい。特に学校との連携を密にして、子供達の出入りを頻繁にすれば利用者の生き生きとした表情が見られると感じる。今後の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員で取り組んでいる。この取り組みを通してサービスのあり方の多くを考えたと思われる。評価については前向きにとらえられており、前回の改善点を見事にクリアしており、努力が窺(うかが)えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催されており、参加されている委員も地域を代表されるような方々であり協力が期待されると思われる。ホームの状況も細かく説明されている。地域の人たちとの関係を良くするために意見を出してもらい、協力をしてもらう方向に持っていくことが肝要である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議には包括支援センターの職員も出席されているし、広報などでも情報が提供され良い取り組みになっている。	○	行政関係者に情報が流れているとは思いましたが、それでも充分なところまで届いていないと思われるので、もう少し啓発に取り組んで欲しい。事務手続き以外にもっと情報交換等を行うことが望まれる。また、包括支援センターの職員には、ひとりでも多く出席されるように促すことも良いことだと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの過ごし方については、3ヶ月毎にケース記録の写しを送っている。広報と、必要によっては電話でホームの様子も詳しく知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関する相談や苦情専用窓口が設けられ担当者も決まっていることは重要事項説明書に明記され、また投書箱も用意され受け入れ体制はできている。苦情はないが、入所などに関わっての相談はあった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行わないようになっている。また退職者もこれまでは無かった。今後、異動・退職者が出る場合は担当者を早目に決めて利用者へのダメージを少なくすることは考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、多くの職員が参加し研修することで、サービスの質の向上に役立てている。事業所外での研修にも参加され、その記録も良く執られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花北ブロックの同業者同士の交流会や職員交換研修などが行われている。持ち回りで交流会を開催し、サービスの質の向上に向けて努力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な生活の変化で混乱を起すのを避け、利用前に家族と事前に見学してもらったり、馴染みのスタッフやケアマネージャーの来訪など、色々な対応をしている。本人や家族からどんな生活をしてきたかをよく聞いて、それを参考にしてホームでの暮らしを続けさせることが大事と考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として受容し対応している。利用者に学ぶことは多く、「教えて貰うこと」を大切にしている。教わることの中から、喜怒哀楽を見出し、共に分かち合っている。職員は利用者の長所、短所を理解して見事に実行している様子が窺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を把握し毎日の介護に活かしている。利用者との話し合いや動きから希望を把握し、それに答えてやることである。時間をかけて、本人の意向を聞き取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員からの口答での引継ぎや申し送りノートなどで利用者の生活の様子を良く観察し、皆で意見を出し合って計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、3ヶ月毎に見直されている。見直しの前の計画書と見直し後の計画書で確認した。利用者の状況や家族のお話しも充分参考にされている。見直しの度にケアプランを現状に合わせ変えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の意見を多く取り入れた支援が行われている。お正月の外泊が多い。外泊に当たっては外泊届を提出して貰い、利用者の状況を把握している。また、時々自宅にも赴き、利用者に安心感も与えるように、細かい気遣いも欠かさない様子が窺えた。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医があり、それを尊重し連絡を取るなどして適切な医療が受けられるように支援している。また職員に看護師もあり、その都度適切な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、ホームとしては話し合っているが、まだ話し合いは不十分である。法人内に特養施設もあるので対応していく体制はあるが、今後、御家族との話し合いを更に重ね、関係機関も含め一層の話し合いをしていくことが必要だと思われる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報とは絶対外部に漏らさないことをミーティングや会議・研修会などで話し合っている。情報を伝える場合も、他の利用者に分からない方法がとられている。マニュアルもあり、徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先されないように注意されている。その人のペースに合わせ、食事に時間をかけて本人のペースで食べてもらう。急がせることをしないで本人本位での対応している場面が他にも見受けられた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう利用者が嫌いなものの時などには、代替食を提供するなどの工夫や、月に1度は法人主催のバイキング食を楽しんでもらっている。また、準備については数人の方が、野菜を切る人、テーブルを拭く人、片付ける人、食前後の挨拶など行っていた。	○	「食べる楽しみ」を準備の匂い等で感じながら、皆で協力し、食事の準備には可能な限り参加してもらう方向で取り組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯については、本人やご家族から希望を聞き対応している。マニュアルもあり羞恥心に対して注意されている。また、入浴を嫌がる利用者にはタイミングをみて「入浴」の言葉を使わないで、工夫して接している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問時に花壇の草取りをしていた方がいた。お掃除の好きな人もみられた。気晴らしにドライブすることもある。個々の楽しみ等を大切に考えている。花壇の草取りを無理のない姿勢で行えるように上面を高くするなど、工夫されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好きなときに庭を自由に散歩している。温泉のバラ園や白鳥の見学、花巻のボタン園、またよその施設の文化祭を見に行くなどの外出支援が行われている。利用者からよく希望を聞いて支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について職員はよく学習されている。日中は鍵をかけておらず、ミーティングでは見守りについてよく話し合っている。日中外に出る時は、職員が付き添い、対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練(火災・地震・通報訓練)は実施されている。消防署の検査も受けている。非常用品は法人で用意されている。	○	生命に関わる訓練であるので、今後も実施される事を望む。地域の人たちの協力体制も得られるよう取り組み、訓練には消防署にも参加・協力の依頼等を望みたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に管理栄養士がおり、一日の食事量、水分摂取量については指導されている。残食量チェック表も記入されており、ミーティングでも話し合われている。チェック表は五段階で表示され、ひと目でわかるように工夫されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファが適所に置かれ状況に応じて休憩や懇談がとれるようになっている。段差や手すり、床の滑りなどについても整備・対応されていた。時計やカレンダーもあり、窓も適当にあって絶えず外の様子が見られ生活感や季節感も取り入れられ気持ちよく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、きれいで清潔感が感じられた。しかし、自室の延長というところから考えると馴染みのものが少なく、やや落ち着かないように感じられた。	○	本人やご家族と相談され、使い慣れたものや馴染みの品をより取り入れ、自室としてゆっくり過ごせる環境が作られていくことに期待したい。その人らしくゆっくりした気持ちで過ごせる支援を望みたい。